



地域の夢

与板地域

「新市地域らしさ価値」を高めるための与板地域の方針と活動

与板地域は、こんなところ

■与板町の成り立ち

与板町は、新潟県のほぼ中央に位置し、東には信濃川を望み、西には西山丘陵の緩やかな山林を背景とした、水と緑に囲まれた町です。長岡ICから車で約20分、中之島・見附ICからは車で約15分、JR長岡駅からバスで約40分の距離にあり、都市近郊と自然が融和した住みよい町でもあります。

東半分が耕地で、西半分が緩やかな山林となっていて、柏崎市に源を発した黒川が、町の南端から耕地の中央を縦貫し、北の端で信濃川に合流しています。

「与板」という名称の起源ははっきりしませんが、康平3年(1060年)の越後地図には「與田」とあり、寛治元年(1087年)には「與板」と記されているところから、このころには集落が形成されていたものと思われます。縄文中期以後の生活跡とされる遺跡が発見されたことから、はるか昔から漁労・狩猟・採集に適した理想的な地であったと考えられています。

■名将が治めた城下町

与板には、室町から江戸にかけての時代、それぞれの武将、明主が居城した三つの城跡があります。

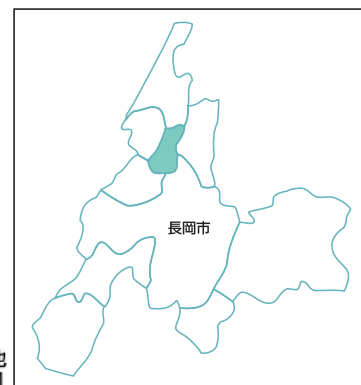
上杉謙信の重臣として手腕を発揮した直江景綱などが居城した本与板城(山城)、上杉景勝の重臣であり、豊臣秀吉をして、「戦国武将3大人物の1人、希代の英傑」といわしめた直江兼続が居城した与板城(山城)、江戸時代から井伊氏が居城した与板城(平城)があり、現在の市街地の町並みは江戸時代からの名残であります。現在、それぞれの史蹟保存会等により

与板地域の方針と活動 (右頁参照)

与板地域において「新市地域らしさ価値」を高めていくための方向性と、活用したい地域資源(地域の強み)から検討した、将来実現すべき地域の姿(整備・活動方針)と実現のための活動・展開を提示します。

城跡の保存と歴史が受け継がれています。

また、それを象徴するように歴史的な文化財も多数あり、両方の山城は県の文化財指定を受け、与板城(平城)の入口と通用口である大手門と切手門、藩祖である井伊直政が徳川家康から賜った孔雀尾具足羽織など19の町指定の文化財が、町の各所や資料館で保存されています。



■地域活動が活きる教育環境

一つの町に保育園、幼稚園、小学校、中学校が一枚ずつあることから、地域と学校とのつながりが強く、郷土の歴史、動植物や商店街探索など地域住民が先生となって児童・生徒たちとふれあう機会が多くあります。あわせて、生涯教育とのつながりも密接で、スポーツ少年団、少年リーダー研修等文化・スポーツ団体の活動が活発に行われています。

幼稚園には清風園、小学校には河川公園、中学校は黒川の堤防があるなど、豊かな自然に囲まれた環境は、次世代を担う心豊かな人材を育てています。

1 整備・活動方針と活動展開

—新市全体ありたい姿— WANT

与板地域において

独創企業が生まれ育つ都市

～誠実さが生み出す「技」立国・新ながおか～

を高める方向性

- ・特有の地域資源を他地域との交流を通じて、これまでになかった活用方法などを考えていくことで、新市全体の独創力を高める

—実現すべき与板の姿— WILL

■与板地域整備・活動方針

特有の地域資源を活用した 独創と起業を進める地域の形成

- ・歴史や自然が培ってきた様々な地域資源を活用し、新しい切り口による製品や技術、ビジネスの開発につなげていく

実現していくための活動・展開

見極める

- 伝統技術をはじめ、地域にある様々な資源の活用方法について、地域の様々な組織・人材と共同で考える仕組みづくりを行う

発信する

- 与板地域の詳細な地域資源の内容について発信し、他地域資源との連携の基礎とする

育てる

- 大学との共同研究や企業との共同開発など、地域内の活動を外部に広げるための地域全体での支援体制づくり
- 教育の一貫的な体制を活用した技術の伝承

—活用したい地域資源— CAN

資源の強み・内容

歴史や自然が培ってきた特有の資源

- 400年前の刀鍛冶から始まった「越後与板打刃物」
 - ・戦国時代に端を発する打刃物業は、江戸時代から現在の大工道具としての歴史が開かれ、昭和61年に伝統工芸品の経済産業大臣指定を受けている。
 - ・「越後与板打刃物」の伝統工芸士として認定されている11人の匠は、伝統を引き継ぐ技を活かして、一流品の大工道具製造に更に磨きをかけている。

●品質日本一の転作大豆

- ・肥沃な土壌を利用して、確立した効率的な栽培方法により生産される転作大豆は、品質と収量を対象に行われる品評会で日本一に輝いたこともあり、全国トップクラスの評価を得ている。

●竹酢液などの新たな資源による製品化の動き

- ・「馬越たけのこ生産組合」の間伐した竹の廃材利用のアイデアから生まれた、竹炭と竹酢液作り。竹炭は脱臭剤や調湿剤、竹酢液はアトピー性皮膚炎に効果がある入浴剤、農業用防虫剤としても利用でき、製品化されている。

●保育園・幼稚園・小学校・中学校の一貫的教育環境

- ・1町1校を活かした教育により、地域住民と教育現場のつながりが強い充実した教育環境の中で、総合学習において地域と密着した地場産業学習会が取り入れられている。

2 整備・活動方針と活動展開

—新市全体のありたい姿— WANT

与板地域において

元気に満ちた米産地

～まごころ米の生まれる里・新ながおか～

を高める方向性

- ・各地域における様々な文化を保存、発掘し、地域づくりの「心の核」としていくことで「元気に満ちた米産地」の文化を体現する地域としての一翼を担う

—実現すべき与板の姿— WILL

■与板地域整備・活動方針

地域づくりのよりどころとなる 「歴史と田園が織りなすふるさと」の形成

- ・登り屋台や神楽舞いなどの、各地域の文化の相違性を再認識し、それぞれの文化を共有することで、統一的な真の地域づくりの信念の形成と、景観形成などによる信念の具現化を展開する

実現していくための活動・展開

見極める

- 農村部の神楽舞いなどの伝統芸能、伝統文化、風習の掘り起こし活動
- 登り屋台や寺社など、地域を代表する資源を再認識するための機会づくり

発信する

- 地域資源の活かし方を含め、地域づくり活動全般を発信するとともに、事例を収集する

育てる

- 地域づくりの信念について話し合う場を設け、与板地域全体としての共有価値を育む
- 共有価値の具現化として現在よりも良い景観にかえていくための取り組みを市民・行政が協働で行う

—活用したい地域資源— CAN

資源の強み・内容

歴史文化が育むふるさと景観

- かつての郡都、信濃川舟運が育んだ歴史文化・景観
 - ・信濃川を利用した河川交通の要衝地として廻船問屋が栄えた町には、役所や行政機関が置かれ、郡の中心として繁栄した

●現在も伝えられる農村部の文化

- ・町部の伝統文化を引き継ぐ登り屋台と同様、市街地を囲む農村部では五穀豊穡、健康を願う神楽舞いや鎮守の春祭りなど伝統文化や風習が古くから引き継がれ、今も昔も地域の融和を図っている

●「人々の憩いの場」実現に取り組んだ地域の動き

- ・人々の憩いが込められ造られた河川公園は、改修により水位が減った黒川の土手を平坦にして整備が始まり、町内外から訪れる人に親しまれている憩いの場

地域づくりを目指す人々の力

- 品質日本一の転作大豆と生産組織の努力
 - ・各集落単位等で確立された生産組織による、効率的な栽培方法による生産が行われている

●ホテルが舞う市街地

- ・「ほたるを守る会」により生態環境が守られ、田園地から住宅地にかけてホテルが舞う、他には類をみないふるさと景観がある

見極める

- 農村部の神楽舞いなどの伝統芸能、伝統文化、風習の掘り起こし活動
- 登り屋台や寺社など、地域を代表する資源を再認識するための機会づくり

発信する

- 地域資源の活かし方を含め、地域づくり活動全般を発信するとともに、事例を収集する

育てる

- 地域づくりの信念について話し合う場を設け、与板地域全体としての共有価値を育む
- 共有価値の具現化として現在よりも良い景観にかえていくための取り組みを市民・行政が協働で行う

3 整備・活動方針と活動展開

—新市全体ありたい姿— WANT

与板地域において

世代がつながる安住都市

～未来人を育む資源博物館・新ながおか～

を高める方向性

- ・他地域との交流によるすべての体験や感情を、地域の財産として捉え、その体験の中に地域がよりよくなるための問題点や課題を発見することで、“真心の地域づくり”を目指す

—実現すべき与板の姿— WILL

■与板地域整備・活動方針

積極的な交流で、常に育ちつづける地域と人づくり

- ・現有している豊富な地域資源の現状の力を冷静に捉えることで、その中に本当に地域が求めている理想の地域像を持てる地域と人づくりを目指す

実現していくための活動・展開

—活用したい地域資源— CAN

資源の強み・内容

コンパクトな町に点在する豊富な資源

- ・楽山亭、積翠庵、良寛歌碑、3城址を代表とする多数の史跡・文化財
- ・河川公園、キャンプ場、森林公園、志保の里荘、障害者地域交流センター
- ・与板十五夜まつり、伝統芸能文化子供教室

学校教育で続けられている“思い”の記録

- ・地域と密着に行われている教育活動は、町の産業、文化、自然、地元の人たちとふれあうことで地域を知り、子供たちの健やかな慣性を養っている。小学校で毎年発行されている「わたしたちのよいた」には子供たちの地域への思いが綴られている

地域の人材バンクと未来の人材育成

- 「みんなが先生になろう」！誰もが登録できる人材バンク
 - ・スポーツ、趣味、料理、伝統文化など自分の特技を活かした約300人の登録者があり、地域づくりの一躍を担っている
- 組織は小さいが、夢を実現しようとする人材
 - ・子供たちの未来の活躍を願って、多数のスポーツクラブによるジュニア指導教室と伝統芸能子ども教室や和太鼓など伝統文化を継承する活動が盛んに行われている

河川公園をつくった地域の力

- ・地域住民の意見やいろいろなアイデアを取り入れ、様々な利用を考慮して造られた憩い空間には、道具、桜並木と戦時中の疎開者との交流で株分けされた花菖蒲が植えられる花菖蒲ゾーンがあり、子どもから大人まで楽しめるにぎわいの中心スポットとなっている

見極める

- 地域資源の客観的な強みを認識する活動の実践
- 現在、行われている学校教育活動を地域全体に発展させ、時代や出来事に応じた住民の様々な思いを記録する活動を実践

発信する

- 地域資源の内容発信や様々な交流を通じて、与板地域への評価や感想を収集する

育てる

- 地域で活動する人材を中心に、与板地域への評価を振り返り、話し合うしくみや環境づくりを行う

4 整備・活動方針と活動展開

—新市全体のありたい姿— WANT

与板地域において

世界をつなぐ和らぎ交流都市

～「人」「ものがたり」「競和国」・新ながおか～

を高める方向性

- ・新ながおか全体の視点から与板の資源の役割と活用法を模索・提供する地域の創造を目指す

—実現すべき与板の姿— WILL

■与板地域整備・活動方針

豊富な歴史文化や人柄が創る、まごころのもてなし発信地域

- ・歴史・自然が培ってきた豊富な地域資源を、他地域と連携することによって、新市全体を魅力的に高めるようなもてなしネットワークの形成と支援に取り組む

実現していくための活動・展開

—活用したい地域資源— CAN

資源の強み・内容

歴史文化が引き継ぐ地域の人柄

- 信濃川舟運が育んだ文化
 - ・与板城に居城した直江兼統は、信濃川の砂防工事等で水利事業に大きな功績を残した その信濃川舟運を利用して栄えた商人の町は濃やかな人情を引き継いでいる
- 登り屋台…与板十五夜まつりの華やかさ
 - ・与板十五夜まつりのメインである登り屋台の提灯の明かりと屋台囃子の音色は、町民の元気の源を呼び起こし、参加者と観衆すべてを魅了する伝統的なイベント
- 名将「直江兼統」
 - ・豊臣秀吉をして「天下の器」といわしめた北斗の名将直江兼統 兜の「愛の前立」が象徴する兼統が信条とした愛民の心と精神は、現在も住民に引き継がれている

自分の興味を持っていることに自由に取り組む地域の気風

- ライトアップ事業の取り組み
 - ・住民有志により手作りで始められた、江戸時代の豪商「大坂屋」三輪家の別荘「楽山亭」のライトアップ事業 新緑の開催期間中には数千人の人が訪れる
- 自然環境づくり、保護活動
 - ・商工会のまちづくり委員会が進められている昆虫の森プロジェクトや自主グループで活動するカブトムシ育て隊、ほたるを守る会による環境づくりや自然保護活動が行われている
- にぎわいの中心、河川公園
 - ・新緑の中で住民有志の実行委員会により毎年開催されるリバーパークフェスティバルは、公園の魅力を生み出す原動力の1つとなっている
- まごころを込めて作った大判焼
 - ・昔ながらの手作りで焼き上げられる「大きさと味」が評判の大判焼は、まごころが込められた名物のひとつとなっている

見極める

- 「米産地」で高めた地域資源や人材の活用方法を考える活動
- 質が高く、魅力的な新ながおか観光交流ルートの検討と提案活動

発信する

- 新ながおかもてなしネットワークの提案を発信しながら、意見収集活動を行う

育てる

- 新ながおかもてなしネットワーク形成において重要な事柄（民泊推進など）を率先して取り組む地域体制づくり

もっと詳しく地域の力

与板地域

西山丘陵の自然を活かした森林公園や中腹にある楽山亭から市街地を見下ろすと、そこには広大なパノラマが目に飛び込んできます。「水静かなる信濃川」と小学校の校歌にも歌われている大河信濃川を前面に、平地に立ち並ぶ町並、「米どころ」越後平野の一端を担う水田がそれを囲むように広がっています。緑豊かな自然の中に育まれた濃やかな人情と歴史に引き継がれる伝統文化を合わせ持つ、情緒豊かな地域です。

■自然が生み出す人づくり

市街地の中心を流れる旧黒川沿いに造られた河川公園では、毎年5月の新緑の頃、リバーパークフェスティバルが開催されます。子どもから大人まで楽しめる内容盛り沢山の手作りイベントは、住民有志で結成される実行委員会で運営されています。

緑に囲まれた森林公園は、昆虫、野鳥、植物などの宝庫です。現在、住民の自主グループにより、自然保護と体験学習を目的とした「昆虫の森プロジェクト」や「カブトムシ育て隊」が結成され、自然を活用した様々な活動が行われています。

このような住民活動をより広げることにより、地域にある資源を大切に守るとともに、地域を知り、共同活動の中で人をいたわり、助け合う心を養う人づくりを次世代につないでいきます。



■河川緑地たちばな公園

町の中心を流れる旧黒川沿いにある通称“河川公園”は300本以上の桜と18万本もの花菖蒲が植えられ、子供が楽しめる様々な遊具もあり、休日には町内外からの家族連れなどでにぎわう憩いの場です。



■登り屋台

“屋台坂”を引き上げられる登り屋台は、毎年9月中旬に行われる与板十五夜まつりのメインイベントです。240年余の歴史を誇り、勇壮で住民の心が一つになれる町のシンボルです。



■楽山亭

豪商「大坂屋」三輪家により造られた楽山亭は、町民から“別荘”と呼ばれ親しまれています。新緑の頃にはライトアップが実施され、たくさんの人でにぎわいます。



■越後与板打刃物

戦国時代に起源を発する与板の打刃物。400年余の伝統と技は全国一の主産地となり、昭和61年に「越後与板打刃物」として伝統的工芸品の指定を受けました。



■うまみち森林公園

豊かな自然を満喫できるこの公園は、ツリー型バンガローハウス、オートキャンプ場サイトの整備など、自然に親しみやすく楽しめるキャンプ場にリニューアルしました。